

2019年7月19日

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

「水害への備えに関する調査」結果

～水害への備えが十分できていない方が約93%～

損害保険ジャパン日本興亜株式会社(取締役社長:西澤 敬二、以下「損保ジャパン日本興亜」)は、「水害の備えに関する調査」を昨年度に引き続き実施しました。その調査結果および専門家のコメントをご案内します。

2018年は西日本豪雨や台風21号などの大規模な災害が立て続けに発生し、保険金の支払いも過去最大となりました。損保ジャパン日本興亜は、公的機関等が開示するハザードマップに過去の保険金支払い実績データを加えたオリジナルのハザードマップを2018年4月からご提供しています。また、自治体や他の企業と共同で、AIを活用した防災・減災システムの開発にも取り組んでいます。

今回の結果をふまえ、損保ジャパン日本興亜は、リスクの適切な補償内容のご提供に一層取り組んでいきます。

■調査結果のポイント

1. 約60%の方が水害への「防災意識は高まっている」と回答。(質問1)
2. 一方、水害に対しての「備えが十分できていない」と回答した方は約93%。(質問2)
3. 水害ハザードマップを確認し「自宅付近の水害リスクを確認している」方は約38%。(質問6)
4. 自治体が発令する「警戒レベル」について「知っている」と答えた方は34%。(質問9)

<アンケート概要>

調査期間:2019年6月14日(金)から6月21日(金)

調査方法:インターネット(PC、携帯電話モバイルサイト)

調査対象者:20～89歳の男女

有効回答数:1,047人

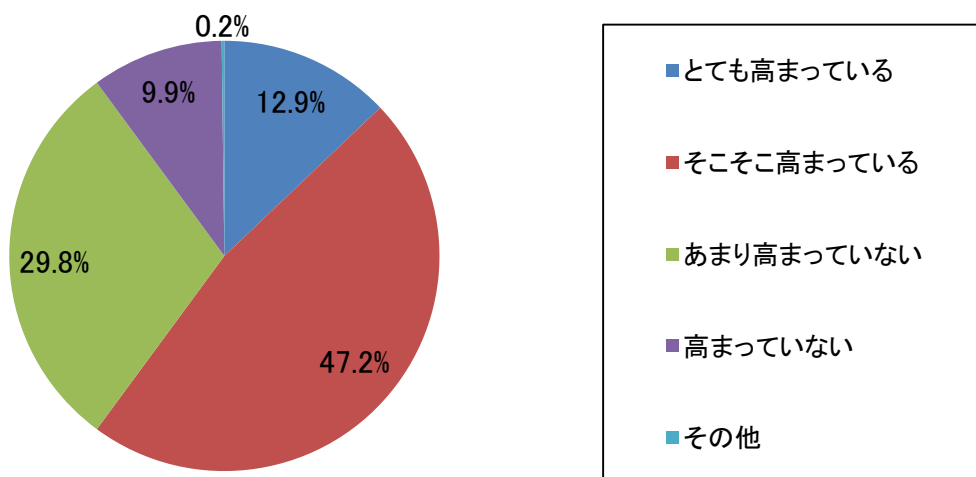
[性別内訳]男性:522人、女性:525人

[年代別内訳]20代(男性:104人、女性:104人)、30代(男性:106人、女性:106人)、40代(男性:102人、女性:102人)、50代(男性:108人、女性:105人)、60代以上(男性:102人、女性:108人)

[地域別内訳]:北海道:45人、東北地方:56人、関東地方:429人、中部地方:165人、近畿地方:241人、中国地方:14人、四国地方:13人、九州地方:84人

質問1. 近年発生している集中豪雨や水害の増加を受け、あなたの水害に対する防災意識は高まっていますか？

「水害への防災意識が高まっている」と答えた方は、60.1%。昨年度の調査とほぼ同じ割合の高い結果となりました。
 「とても高まっている」と答えたのは20代の方が19.2%だった一方、40代の方は8.8%でした。



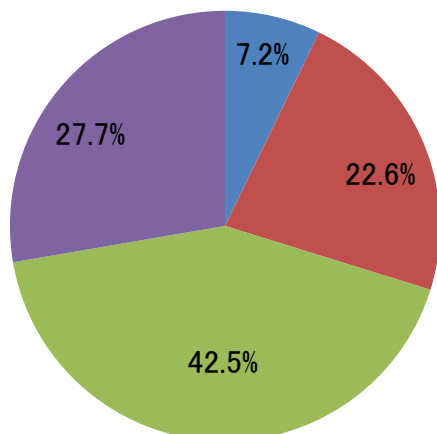
(回答者数:1,047人)

<年代別データ>

全体	1,047	12.9%	47.2%	29.8%	9.9%	0.2%
20代	208	19.2%	41.8%	27.9%	10.6%	0.5%
30代	212	14.6%	41.5%	29.2%	14.6%	0.1%
40代	204	8.8%	48.5%	34.8%	7.4%	0.5%
50代	213	10.8%	51.2%	27.7%	10.3%	0.0%
60代以上	210	11.0%	52.9%	29.5%	6.7%	0.0%

質問2. 現在、水害に対しての備えを何かしていますか？

備えを「している」と答えた方は7.2%のみで、「しているが、十分ではない」「あまりしていない」「していない」と答えた方は92.8%と、水害に対する防災意識の高まりとは反対に、大多数の方の備えが十分できていないという結果になりました。



- している
- しているが、十分ではない
- あまりしていない
- していない

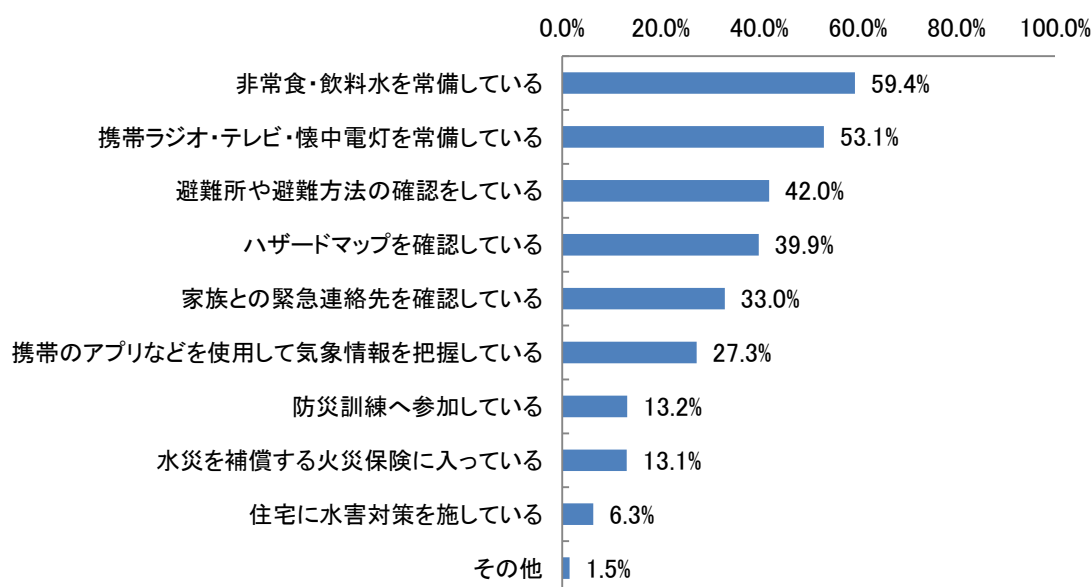
(回答者数: 1,047人)

<年代別データ>

年代	回答者数	している	しているが、十分ではない	あまりしていない	していない
全体	1,047	7.2%	22.6%	42.5%	27.7%
20代	208	13.9%	23.6%	38.5%	24.0%
30代	212	8.0%	21.2%	37.3%	33.5%
40代	204	5.9%	24.5%	42.2%	27.5%
50代	213	3.8%	27.2%	42.7%	26.3%
60代以上	210	4.3%	16.7%	51.9%	27.1%

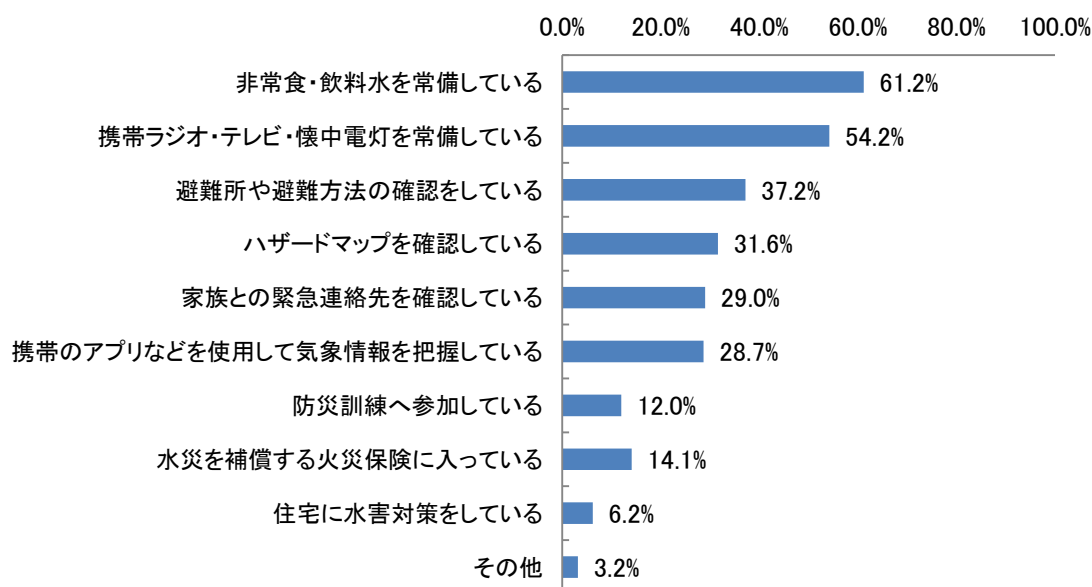
質問3. 備えをしていると答えた方へ、どのような備えをしていますか？(複数回答可)

「ハザードマップを確認している」「避難所や避難方法の確認をしている」と答えた方の割合は前回よりも増え、多くの方が避難時の行動について事前に確認をしていることがわかりました。



(回答対象: 質問2で水害の備えを「している」「しているが十分でない」「あまりしていない」と回答した 757 人、複数回答可)

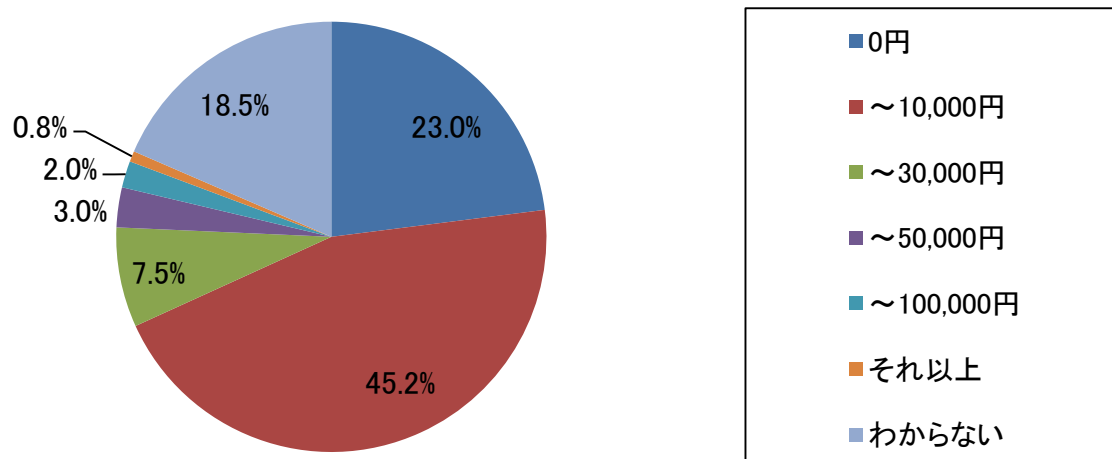
<2018年度データ>



(回答対象: 質問2で水害の備えを「している」「しているが十分でない」「あまりしていない」と回答した方 659 人、複数回答可)

質問4. 備えをしていると答えた方へ、この1年で水害への備えにいくらかけましたか？

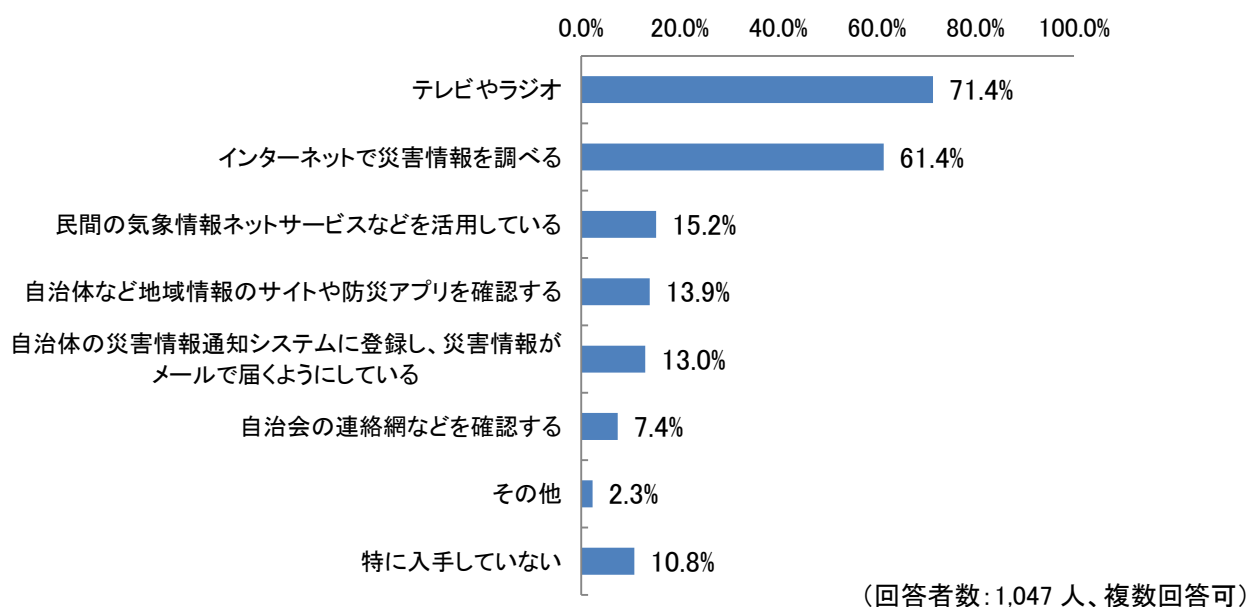
約60%の方が何かしら水害対策にお金をかけた一方、何もされていない方も23%いることがわかりました。



(回答対象: 質問2で水害の備えをしていると回答した方 回答者数: 757 人)

質問5. 日頃、災害情報をどのように入手していますか？(複数回答可)

多くの方が、「テレビやラジオ」、「インターネット」から情報を入手しており、年代が上がるにつれ「テレビやラジオ」から情報収集をする割合が高くなることがわかりました。
13%の方は自治体の災害情報通知システムに登録し、災害情報がメールで届くようにしていることが判明しました。

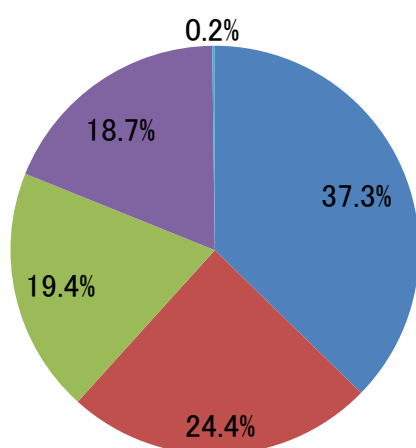


<年代別データ>

	回答者数	テレビやラジオ	インターネットで災害情報を調べる	民間の気象情報ネットサービスなどを活用している	自治体など地域情報のサイトや防災アプリを確認する	自治体の災害情報通知システムに登録し、災害情報がメールで届くようにしている	自治会の連絡網などを確認する	その他	特に入手していない
全体	1,047	71.4%	61.4%	15.2%	13.9%	13.0%	7.4%	2.3%	10.8%
20代	208	50.5%	52.9%	20.7%	16.3%	11.5%	7.7%	2.9%	19.2%
30代	212	67.9%	64.2%	16.5%	11.8%	12.3%	4.7%	3.8%	9.9%
40代	204	71.1%	63.2%	14.2%	9.3%	9.3%	5.9%	1.5%	11.8%
50代	213	77.9%	63.4%	15.0%	15.0%	16.9%	4.2%	2.8%	8.9%
60代以上	210	89.5%	63.3%	9.5%	17.1%	14.8%	14.3%	0.5%	4.3%

質問6. 自宅付近の水害ハザードマップを見たことがありますか？

「ハザードマップを確認している」と答えた方の割合が、昨年度の27.5%から37.5%と大きく増えました。40代以上の方においては、4割以上が確認していることがわかりました。
男性50代の方は6割近くが確認している一方、女性20代の方は2割以下にとどまり、性別・年代別による差が大きいことがわかりました。



- ハザードマップを確認して、自宅付近の水害リスクを確認している
- ハザードマップを見たことはあるが、自宅付近の水害リスクの確認まではしていない
- ハザードマップについて聞いたことはあるが、見たことはない
- ハザードマップがどこで見られるのかわからない、または知らない
- その他

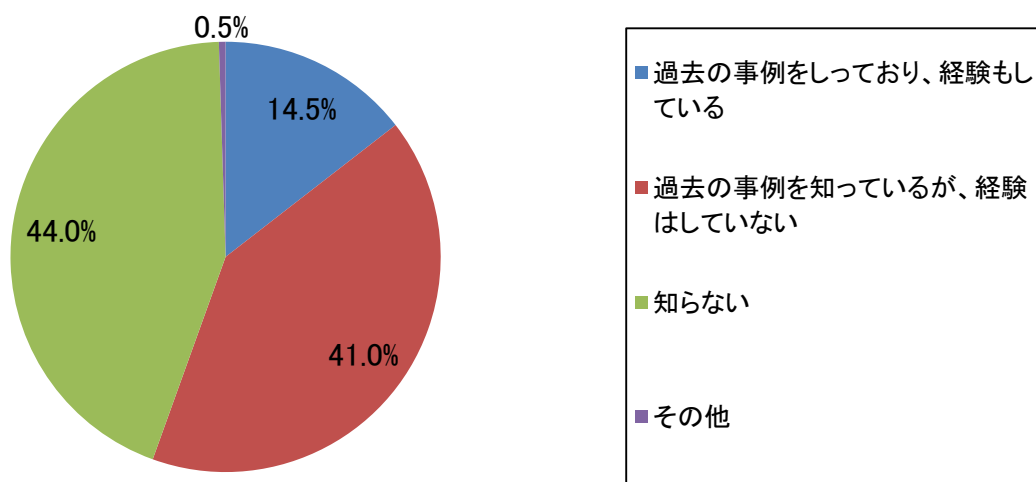
(回答者数: 1,047 人)

<性別・年代別データ>

全体	1,047	37.3%	24.4%	19.4%	18.7%	0.2%
20代	208	24.0%	24.5%	20.2%	30.8%	0.5%
30代	212	32.5%	21.7%	19.3%	26.4%	
40代	204	41.2%	21.1%	22.1%	15.2%	0.5%
50代	213	45.5%	30.0%	14.6%	9.9%	
60代以上	210	43.3%	24.3%	21.0%	11.4%	
男性20代	104	30.8%	28.8%	15.4%	24.0%	1.0%
男性30代	106	38.7%	18.9%	17.9%	24.5%	
男性40代	102	42.2%	20.6%	22.5%	13.7%	1.0%
男性50代	108	57.4%	20.4%	12.0%	10.2%	
男性60代以上	102	47.1%	26.5%	17.6%	8.8%	
女性20代	104	17.3%	20.2%	25.0%	37.5%	
女性30代	106	26.4%	24.5%	20.8%	28.3%	
女性40代	102	40.2%	21.6%	21.6%	16.7%	
女性50代	105	33.3%	40.0%	17.1%	9.5%	
女性60代以上	108	39.8%	22.2%	24.1%	13.9%	

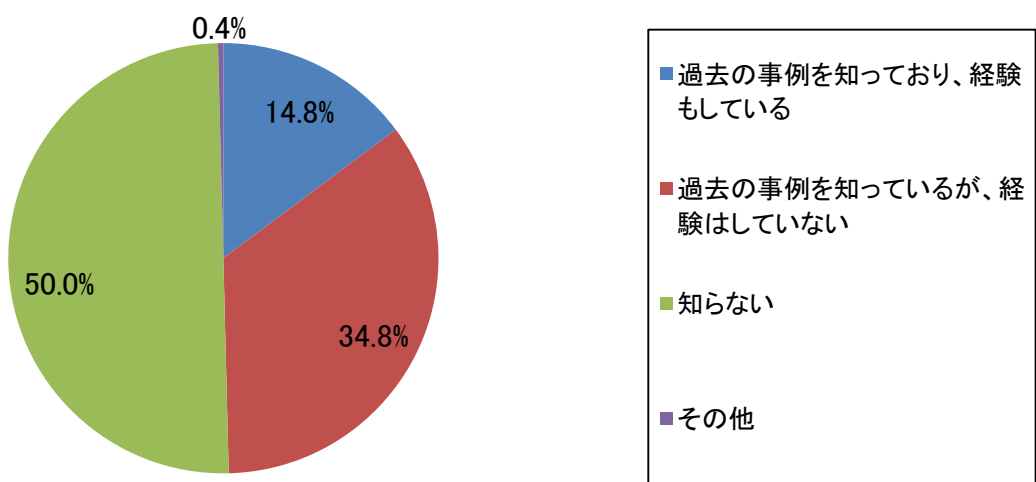
質問7. お住まいの地域の過去の洪水などの水害についてご存知ですか？

経験の有無を問わず過去の事例を知っていると答えた方は55.5%となり、昨年度調査の49.6%を上回りました。



(回答者数:1,047 人)

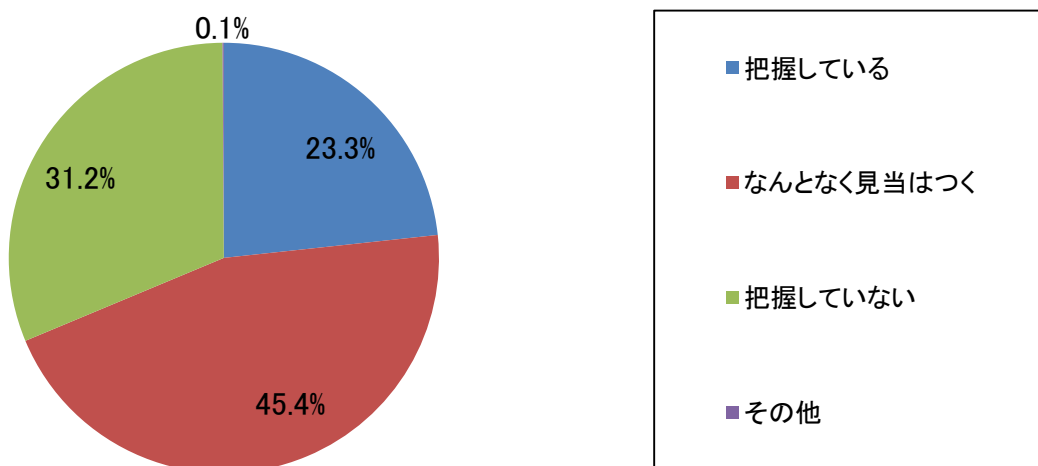
<2018年度データ>



(回答者数:1,037 人)

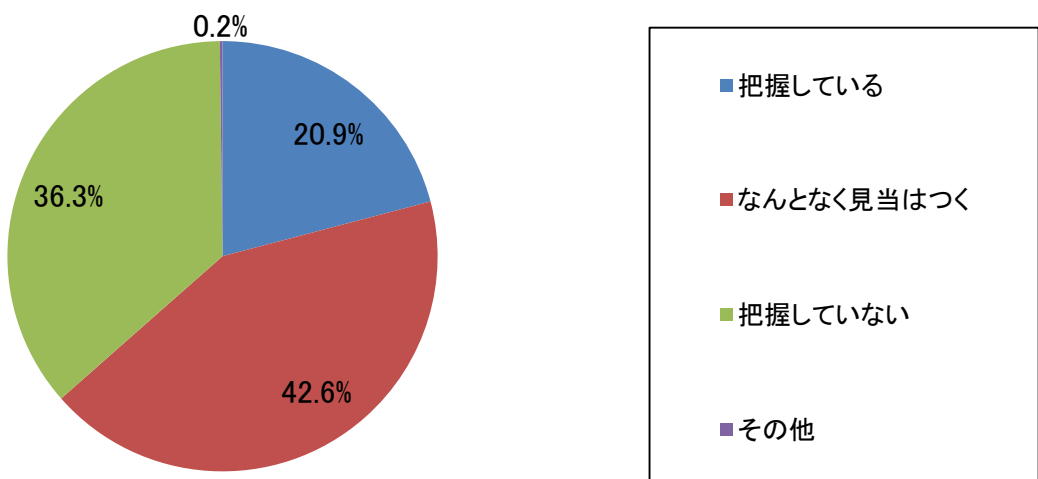
質問8. 大雨時の避難所や避難ルートを把握していますか？

避難ルートを「把握している」「なんとなく見当はつく」と回答した方は、2018年度調査の63.5%から、68.4%と増えました。
年代が上がるにつれ避難に対する認識が高くなっていることがわかりました。



(回答者数:1,047 人)

<2018年度データ>



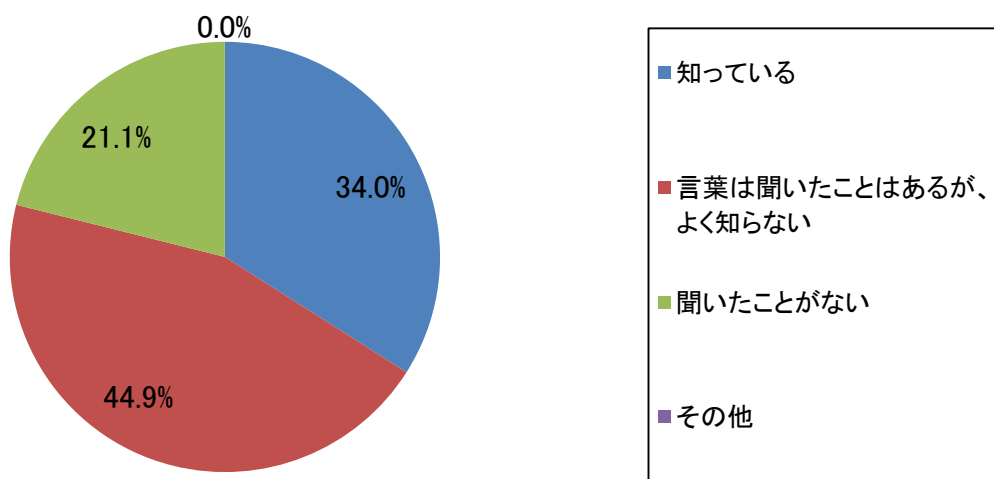
(回答者数:1,037人)

<2019 年度年代別データ>

年代	回答者数	把握している	なんとなく見当はつく	把握していない	その他
全体	1,047	23.3%	45.4%	31.2%	0.1%
20代	208	20.7%	39.9%	39.4%	
30代	212	23.1%	35.8%	41.0%	
40代	204	17.6%	52.5%	29.9%	
50代	213	25.4%	50.2%	23.9%	0.5%
60代以上	210	29.5%	48.6%	21.9%	

質問9. 今年6月から運用が開始された、自治体が避難情報などを5段階に分けて発令する「警戒レベル」の事を知っていますか？

「警戒レベル」について「知っている」と答えたのは、全体では34%にとどまり、7割近くの方が、「よく知らない」「聞いたことがない」という状況にあることがわかりました。
「知っている」と答えた方が、60代以上では約48%だった一方、20代では約27%にとどまり、年代によりかなりの差があることがわかりました。



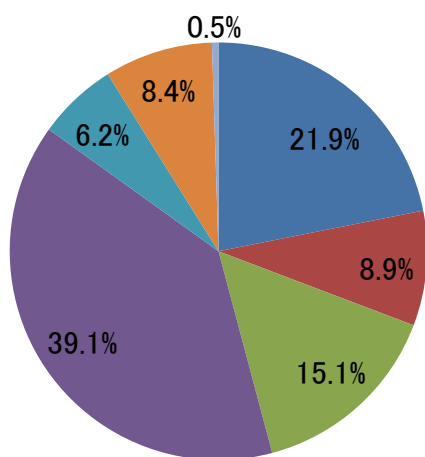
(回答者数:1,047人)

<年代別データ>

年代	回答者数	知っている	言葉は聞いたことはあるが、よく知らない	聞いたことがない
全体	1,047	34.0%	44.9%	21.1%
20代	208	26.9%	43.3%	29.8%
30代	212	32.5%	46.2%	21.2%
40代	204	27.9%	46.1%	26.0%
50代	213	34.3%	48.8%	16.9%
60代以上	210	48.1%	40.0%	11.9%

質問10. 災害の避難情報が出た際、最初にどのように行動しますか？

「近隣住民の様子を確認する」と「インターネットやTVなどの情報を確認する」と答えた方が54.2%を占め、半数以上の方が自身で情報収集をするという結果になりました。
特に男性30代では、半数近くの方がインターネットやテレビから情報収取していることがわかりました。



- 市町村の避難勧告を待つ
- 市町村の避難勧告を待たず、すぐに避難所へ避難する
- 近隣住民の様子を確認する
- インターネットやTV(またはラジオ)の情報を確認する
- その場にとどまる
- わからない
- その他

(回答者数:1,047人)

<性別・年代別データ>

全体	1,047	21.9%	8.9%	15.1%	39.1%	6.2%	8.4%	0.5%
20代	208	19.7%	13.5%	13.5%	33.7%	5.8%	13.5%	0.5%
30代	212	17.5%	9.4%	15.1%	42.9%	6.1%	9.0%	
40代	204	21.1%	7.8%	18.6%	38.2%	6.4%	7.8%	
50代	213	23.9%	7.0%	16.9%	39.0%	4.7%	7.5%	0.9%
60代以上	210	27.1%	6.7%	11.4%	41.4%	8.1%	4.3%	0.6%
男性	522	20.1%	10.0%	13.6%	40.6%	7.5%	8.2%	
女性	525	23.6%	7.8%	16.6%	37.5%	5.0%	8.6%	1.0%
男性20代	104	22.1%	16.3%	13.5%	32.7%	3.8%	11.5%	
男性30代	106	17.0%	9.4%	11.3%	49.1%	6.6%	6.6%	
男性40代	102	12.7%	9.8%	17.6%	39.2%	9.8%	10.8%	
男性50代	108	25.0%	7.4%	13.0%	40.7%	6.5%	7.4%	
男性60代以上	102	23.5%	6.9%	12.7%	41.2%	10.8%	4.9%	
女性20代	104	17.3%	10.6%	13.5%	34.6%	7.7%	15.4%	1.0%
女性30代	106	17.9%	9.4%	18.9%	36.8%	5.7%	11.3%	
女性40代	102	29.4%	5.9%	19.6%	37.3%	2.9%	9.9%	
女性50代	105	22.9%	6.7%	21.0%	37.1%	2.9%	7.6%	1.9%
女性60代以上	108	30.6%	6.5%	10.2%	41.7%	5.6%	7.2%	0.9%

SOMPOリスクマネジメント株式会社

リスクマネジメント事業本部 BCMコンサルティング部 社会公共グループ

上級コンサルタント 菅谷 豊のコメント

昨年(平成 30 年)7 月の西日本豪雨等の影響もあり、水害に対する防災意識は高まっている傾向にある一方で、避難場所や避難方法、ハザードマップを確認している人の割合は4割程度、自治体などの提供する防災アプリ、災害情報通知システムへの登録も低調であることから、水害に対する具体的な備え、取り組みには結びついていないと言えます。

ハザードマップで自宅周辺や避難経路の水災リスク等を把握するとともに、いざというときに気象庁や自治体が発表する情報を正しく理解し、要配慮者の有無など、ご家族の状況をふまえ避難することが重要です。

特に、2019 年 6 月から、避難に関する情報や防災気象情報は5段階の「警戒レベル」で示され、災害発生の危険度が高くなるほど数字が大きくなります。警戒レベル3は避難に時間を要する「高齢者等は避難」、警戒レベル4で対象地域の方は「全員が避難」となります。警戒レベル5はすでに災害が発生している状況です。レベル3、4の段階で安全・確実に避難しましょう。

また、日本では、最も頻発している災害が水害であるため、ご自身が加入している保険について風災・水災の補償の有無を再確認して、必要があれば、加入しておくことをお勧めします。